

「ある夏の日」

沖縄県立総合教育センター

所長 城間 盛市

ある夏の日の沖縄県立総合教育センターでの一コマを紹介しよう。

今日も真っ青な空に入道雲が漂う沖縄の夏、朝から気温はすでに30度を越えようとしている。太陽の紫外線から身を守るため、女子所員は紫外線防止用の長手袋で完全武装の出で立ちで本センター内の草花の手入れや散水作業に忙しくしている。中庭の池の水草や藻は網ですくってもすくってもその旺盛な繁殖力には勝てない。清掃割り当ての所員のうんざりした顔が印象に残った。すでに本センターの研修も佳境を呈している。駐車係に割り当てられた所員は誘導棒とトランシーバーを持って正門や所定の位置にスタンバイし、短期研修や悉皆研修に参加する研修員を待ち構えている。そこに車が一台、また一台と吸い込まれるように入っていくが、手慣れた手つきでスムーズに駐車停止線に収まっていく。所員の手際の良さには『感嘆』以外、言葉が思いつかない。

しかしながら、車の多さには今更ながら驚かされる。本センターの広い駐車場があっという間に埋まってしまった。周回道路の路肩への駐車の誘導が始まったが、ものの数分で満員御礼。ご苦労様。駐車整理も一段落ついたところで解散、各自の業務についた。そして、ある者は初任研の担当、ある者は10年研、ある者は出前講座、ある者は短期研修講座の講師として各講義室へ散って行った。そのような日々が夏休み期間中、休日を除いてずっと続くのである。8月も終盤にかかる夏場の蒸し暑さと相まって気苦労や業務疲れも重なり所

員も幾分元気を失っている。9月には所員の笑顔が戻ることを期待しよう。

ところで、第二期教育振興基本計画の中で、今後の社会の方向性としては『創造』『自立』『協働』の3つの理念の実現に向けた生涯学習社会を構築することであると述べている。『自立』とは、一人一人が多様な個性・学力を伸ばし、充実した人生を主体的に切り開いていくことのできる生涯学習社会。『協働』とは、個人や社会の多様性を尊重し、それぞれの強みを生かして、共に支え合い、高め合い、社会に参画することのできる生涯学習社会。『創造』とは、自立・協働を通じて更なる新たな価値を創造していくことのできる生涯学習社会のことである。この3つの理念を私ども所員ひとりひとり心に刻み、日々業務に精進していきたい。

本センターの重点施策の一つであるプロジェクト研究として、『「本県の児童・生徒の学力向上」のための手立て、方策』の調査研究がある。今年度は特に、「確かな学力」を育成するために不可欠な「家庭教育の充実」に焦点を絞って研究を深めたいと考えている。そして、本研究を通して「沖縄型授業づくり」と「家庭における学習を支える取組」を発信していきたい。すでに、先進県視察や講演会が計画通り実施され、新たな取組として定例の学習会も立ち上がることになっている。

本センターの果たすべき役割は多岐にわたっているが、所員一丸となって本県の教育の発展に邁進していく決意である。

***** もくじ *****

● 巻頭言		- 1 -
● プロジェクト研究の取組について	～教科研修班～	- 2 -
● 出前講座「NIEに見る授業の可能性」・「特別講演会」	～教育経営研修班～	- 3 -
● 小・中学校家庭科「自主講座」・小学校理科「自主講座」	～理科研修班～	- 4 -
● 特別支援教育班の班内共同研究の紹介・障害者週間ミニ展示会の紹介	～特別支援教育班～	- 5 -
● 平成25年度夏期短期研修について・インタラクティブ学習システムの紹介	～IT教育班～	- 6 -
● 研修員は今・・・(前期・1年長期研修員研修風景)		- 7 -
● 研修を終えた先生方は今・平成26年度長期研修員募集のお知らせ		- 8 -

プロジェクト研究の取組について

今年度のプロジェクト研究は、沖縄県の児童生徒の学力向上に不可欠な、家庭教育に取り組んでいます。全国学力学習状況調査で最下位の沖縄県は、上位と下位の差が最も大きい県でもあります。夜型社会や県民所得の低さなど、社会的な要因はあります。しかし、下位を底上げして上位との差を埋めるのが学習指導であり、正答率の高い県はいずれもその格差が小さいのです。質問紙調査の結果を見ると、「児童の様々な考えを引き出したり思考を深めたりする発問や指導をしたか」に落ち込みが見られ(表1)、平成20年改訂学習指導要領が求める授業づくりが十分に実施されているとは言えません。また、学習指導の実態を見ると、「家庭学習の課題を与えている」については学力最上位の秋田県を上回っているものの、「家庭学習を評価した」は算数で30ポイント、「家庭学習を促すよう保護者に対して働きかけた」は15ポイント、「家庭学習の課題の与え方について教職員で共通理解を図った」については32ポイント下回るなど、家庭学習の質を学校としてどう高めるか、最後まで見届ける指導の徹底をどのように図っていくかが課題となっています。

表1 平成24年度全国学力学習状況調査質問紙 結果

項 目	肯定的回答	
	沖縄県	秋田県
児童の様々な考えを引き出したり思考を深めたりする発問や指導をしたか	小17.6% 中 7.9%	小35.1% 中32.4%
家庭学習の課題(宿題)を与えている(選択肢1)	小61.1% 中19.4%	小57.7% 中32.4%
家庭学習を評価した(選択肢1)	小37.0% 中24.6%	小67.0% 中32.4%
家庭学習を促すよう保護者に対して働きかけた(選択肢1)	小38.8% 中15.5%	小53.6% 中53.6%
家庭学習の課題の与え方について教職員で共通理解を図った(選択肢1)	小36.1% 中25.9%	小68.0% 中37.4%

そこで、プロジェクト研究では、研究テーマを「『確かな学力』を支える家庭教育に関する実践研究」、サブテーマを「沖縄型授業づくりと家庭における学習を支える取組を通して」とし、新しい知見や指導のノウハウを学校現場に提供して学校の教育力を高めることを目指すことにしました。

年次ごとの研究内容は表2のようになっています。本年度は、実態調査、理論研究・実践研究、講演会の

実施、シンポジウムの実施、研究発表会の実施、指導資料の作成、研究内容の講座化等を計画しております。

表2 年次ごとの取組内容・計画

年度	年次ごとの取組内容・計画
23～24	○出前講座の充実 ○学校支援プログラムの充実(連携校) ○講演会の実施
25	○実態調査 ○理論研究・実践研究 ○講演会の実施 ○シンポジウムの実施(8月) ○研究発表会の実施(2月) ○指導資料作成 ○研究内容の講座化
26 予定	○提言の検証(モデル校づくり) ○指導資料の改善 ○出前講座の実施 ○研修の実施

また、具体的なモデルケースを示すために、成果を上げている学校や先生を発掘し、指導助言を行いながらさらにその指導力を高めるなど、学校支援や人材育成も進めてまいります。

今後も、教育センターの取組として何がふさわしいのか、どうすればセンターとして県の学力向上の取組に寄与することができるのか考え、研究を進めてまいりたいと思います。

※本年度の主な取組事項としましては、8月9日(金)に、秋田県派遣教諭によるシンポジウム、2月2日(土)に研究発表会を予定しております(表3)。

表3 本年度の主な取組事項

月	日	曜	本年度の主な取組事項
3	18	月	教育先進県視察研修(秋田県)
5	7	火	調査研究テーマ検討会
	15	水	第1回講演会 「信頼ベースの学級ファシリテーション」
6	3	月	所員学習会(秋田県の教育について)
	20	金	教育先進県視察研修(高知県)
7	2	火	ワークショップ(秋田県人事交流教諭招聘)
	8	月	所員学習会
8	9	金	第2回教育講演会 「秋田県人事交流教諭によるシンポジウム」
	23	金	理論研修
12			第3回教育講演会
2	2	土	研究発表会

教育経営研修班

1 出前講座 「NIEにみる授業の可能性」 ～発見! 新聞の楽しさと活用法～

本講座は県内のNIE (Newspaper In Education) 活動への関心の高さを背景に、県立総合教育センターの新しい出前講座の一つとして開設されました。児童、教師、保護者を対象に5月から始まったNIE講座は、7月末時点で既に14回開催されています。

(1) ねらい

1930年代に識字率の低下をきっかけに米国で始まったNIE活動。日本では1985年の新聞大会での提唱から、ここ数年で県内でも急速に広がりをみせてきています。今年度、日本新聞協会や県NIE推進協議会から実践指定を受けている学校は公立・私立の小・中・高等学校合わせて16校を数えます。

NIE活動には、教育に新聞を活用することで民主的社会的形成者を育成するという理念・目的があります。学習指導要領でも「言語活動の充実」をもとに新聞が指導すべき内容の一つとして明確に位置づけられ、多くの教科に盛り込まれています。しかし、学校現場では新聞をどのように活用すればよいのかはまだ浸透していないのが現状です。そこで、講座では授業に新聞を活用する方法を知ってもらうことを大きなねらいとして行っています。

(2) 講座内容

講座では主に児童生徒向けの授業とNIEに関する授業参観及び授業研究会、教員向けの校内研修を

行っています。授業は、新聞が教材として取り上げられている4年生から6年生の国語科で、新聞の機能学習や読み比べを中心に行っています。授業後は研究会の時間を取って頂き、授業の意図や新聞の活用方法等も紹介しています。校内研修では、NIEの理論的な側面や必要な背景、新聞の機能性や優位性、そして方法論としてNIEの様々な実践をワークショップ形式で体験して頂いています。いずれも新聞社に協力を依頼し、県内2紙の新聞を無償で提供してもらい実際の新聞を使って行うことができています。

(3) 受講者の声 (アンケートから)

- ・ 低学年なので新聞に慣れ親しむことや興味関心を持たせることから進めていきます。
- ・ 知らなかった実践例や取り組むことで得られる効果等も分かりとても良かったです。
- ・ すぐにでも実践したくなる活動がたくさんありました。



＜喜瀬武原小中学校での講座の様子＞

2 特別講演会 ～実践から伝わった評価の有効性～

6月17日(月)、琉球大学教育学部実践総合センター准教授の吉田浩之先生を招いて、長期研修必修講座の一環である「特別講演会」が行われました。講師の吉田先生は、元中学校教員で、専門は生徒指導、応用心理学、陸上競技コーチング。また、「部活動と生徒指導」(学事出版)「月刊生徒指導」(学事出版)への執筆もなさっているとのことでした。

講演会の内容は、先生のこれまでの実践を踏まえた内容で、新採時代のエピソードから始まり、部活動、道徳、学級経営、学力向上等々についての話がありました。学級経営におけるテキスト(有形物)の必要性や部活動での評価規準など、新しい視点を示してもらいました。教師として、そして組織の一員としての本質を常に見つめ直し、日々実践していくことを強く感じる講演会でした。

＜研修員の感想＞

- 「最初にあらゆることの基準を申し合わせる」というのは、非常に大切だと思います。学校現場ではそれがなされていないのが現状。今日の講演を聞いていると、労力と時間を割いてでもやるべきだと感じた。現場に戻ったら推進したいと思いました。
- 「子ども論、家庭論を言うまえに、授業者としての評価を受けろ!」と熱く仰っていたのがとても心に響いた。教師としての本質を常に見つづけられる人間になりたいと思います。

小・中学校家庭科「自主講座」 基礎・基本の技能習得を目指して開催

昨年度に続き、今年度も家庭科では「自主講座」を実施しています。学習指導要領改定のポイントや実習の評価の仕方、言語活動を取り入れた製作の授業（考えさせる授業展開）などを目的に取り入れ、実習を通して講座を行いました。

特に小学校におきましては、5・6年生を担当されている先生方へ、「初めて家庭科を教える方」、「家庭科が苦手な方」他、学年の皆様お誘い合わせの上ご参加いただくよう連絡をしました。

日程についても、昨年度の反省から小学校の先生方は土曜日の午前中に講座を開催し、昨年度以上に時間にゆとりを持って参加ができたと思います。



<小学校第1回調理の基礎>



<中学校第4回あづま袋製作>

回	期 日	平成25年度 講座内容・計画	人数
小学校	① 5/11(土) 9:30~12:00	・手縫いの基礎をマスターしよう	9
	② 5/18(土) 9:30~12:00	・ナップサックの製作(シンの操作)	8
	③ 6/8(土) 9:30~12:00	・調理の基礎	10
	④ 6/15(土) 9:30~12:00	・ペア調理	7
中学校	① 6/28(金) 18:15~20:30	・被服の基礎、簡単な製作	11
	② 10/25(金) 18:15~20:30	・消費生活	

★6月15日ペア調理の様子★

(小学校6年生「炒める」授業の進め方)

【調理理論】と【調理実習】

- ①沖縄の食材について
- ②言語活動を取り入れた「米飯」「沖縄の野菜炒め」
- ③ペア実習の進めかた

★6月28日【中学校被服製作】(あづま袋の製作)★

- ①「新聞紙で試作」…言語活動
- ②「布で製作」

*自分なりに工夫する。

- ③「完成作品の発表」

小学校理科「自主講座」 実感を持った理解をはぐくむ授業作りを目指して

本講座は小学校の先生方を対象に、12回計画しています。7月までに6回の講座が行われ、のべ92人の先生方が受講しました。

講座は、授業で使える観察・実験・実習を中心として先生方のスキルアップを図り、児童に実感を持った理解が育まれるような授業づくりができることを目指しております。また各講座とも教材・教具の紹介やワークシート、プレゼンテーションを使った効果的な授業の進め方など授業実践に即役立つ内容となっています。

参加は、理科専科の先生が多いですが、担任の申し込みもお待ちしています。



<第4回講座：天体望遠鏡操作と観察>

※各講座実施後には、講座の様子をまとめ本センターHPに掲載しています。ご覧ください。
<http://www.edu-c.open.ed.jp/>

今年度の計画(センターHP:「自主講座」の案内から)

回	期 日	平成25年度 講座内容・計画	人数
①	4/26(金) 9:30~12:00	・昆虫と植物(3年) ・植物の発芽と成長(5年)	16
②	5/2(木) 18:00~20:00	・動物のからだの作りと運動(4年) ・動物のからだのはたらき(6年)	15
③	5/17(金) 18:00~20:00	・「動物の誕生」メダカの飼育と観察(5年) ・「植物の養分と水の通り道」(6年)	20
④	6/14(金) 18:00~20:00	・月と星 ・春夏の星空の観察(4年)	11
⑤	6/22(土) 18:00~20:00	・理科ネットワークを活用した授業づくり ・※IT研修班と連携	22
⑥	7/26(金) 18:00~20:00	・身近な自然の観察(3年) ・生物と環境(6年)	8
⑦	8/9(金) 18:00~20:00	・沖縄の岩石(野外観察)	
⑧	9/13(金) 18:00~20:00	・空気と水の性質(4年) ・水溶液の性質(6年)	
⑨	10/4(金) 18:00~20:00	・振り子の運動(5年) ・てこの規則性(6年)	
⑩	10/18(金) 18:00~20:00	・「電流の働き」(5年) ・「電気の利用」(6年)	
⑪	11/9(土) 9:00~12:00	・「栽培技術」*産業教育班連携	
⑫	11/22(金) 18:00~20:00	・「金属、水、空気と温度」(4年) ・物の溶け方(5年)	

班内共同研究 一人ひとりの「子どもがわかる・できる」授業づくりに関する研究

サブテーマ

“特別支援教育の視点を活かした学級経営・保護者との連携を通して”

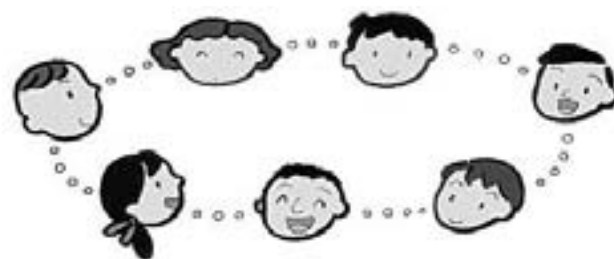
特別支援教育班では、『『確かな学力』を育成する』という統一テーマのもと、平成24年度は特別支援教育の視点から『個々のニーズに応じた『わかる・できる』授業づくりの在り方』に関する研究に取り組んだ。その内容は、学校における支援体制や教師間の連携強化を目指し、出前講座の内容を従来からの講義型から演習型へシフトするといった新たな工夫を行なった。その結果、特別支援教育の視点による授業改善への理解や教員間の情報の共有化や共通理解につながってきた。

しかし、これらの授業改善は支援体制を含め、教師の視点からの取り組みであり、子どもの学びの視点からの取り組みが必要である。

そこで、平成25年度は、これまでの授業改善に更なる工夫を加えて、子どもが学習するという側面にもアプローチして行くことで、これまでの研究を継続・継承し、

一人ひとりの「子どもがわかる・できる」授業づくりの研究をより深めていくこととした。

取り組む内容としては、特別支援教育の視点から、授業の更なる改善と子どもの活動の充実を図る学級経営の在り方、学習を支える力の育成を目指した保護者との連携の在り方について研究協力員と共に実践し、検証を行ない、一人ひとりの「子どものわかる・できる」授業づくりにつなげていきたいと考えている。



平成25年度 障害者ミニ展示会のご案内

特別支援教育班では、毎年、12月の障害者週間に合わせて、ミニ展示会をおこなっています。「広く一般の人々に特別支援教育や障害についての理解啓発を図る」ことを目的としておこなっています。

平成25年度は、12月11日(水)～16日(月)の6日間の予定で、計画しております。

昨年度は、1000名余の見学がありました。

1. 開催日時
平成25年 12月11日(水)～16日(月)
2. 場所
具志川ジャスコ 1階イベントフロア
3. 展示内容
(1) 特別支援学校に通う児童生徒の作品
(2) 教材教具

多くの参観者のご来場をお待ちしています。

昨年度の会場の様子



児童生徒の作品



平成25年度 夏期短期研修について

短期研修事業は、本センターが実施する教職員研修事業の一つです。学校現場が抱える教育的課題解決と各教師のニーズに応じていくため、教科・領域等に関する実践的指導力の向上を図り、教員としての資質を高め、本県教育の活性化と発展に資することを目的としています。

本年度は、86領域108講座を開設し、定員約3,700名の募集に対し4,200名以上の応募がありました。このような中、スムーズな研修への応募をねらい、公立幼稚園を含む全校種において夏期短期研修の申し込みを専用のシステムを活用して行っております。学校現場や関係行政諸機関よりかねてより要望が多かった申し込みシステムとあって、学校現場からの申し込みの円滑化が図られ、関係行政諸機関でもタイムリーな応募状況を閲覧することができると喜ばれています。応募者数もシステム導入前と比べると約1,700人も多くなり、定員や講座開催日を増やしたり、会場の変更等により対応しております。

受講者からは、「このような指導方法や教材があったのかと驚いています。」「離島での開催もしていただき大変ありがたいです。」「具体的な事例紹介など、すぐに現場で使える内容であった。」等、講座からの新しい発見を現場ですぐに実践に生かしていきたいという感想が多く寄せられました。

さらに現場の先生方のニーズに応え、本県の抱える教育課題の解決に向け、所員一同皆様に喜ばれる講座を目指して参ります。



写真：夏期短期研修の様子（すぐ役立つ表計算ソフト活用講座）

インタラクティブ学習システムの紹介

インタラクティブ学習システムは現在、県内全小中学校の65%以上が利用申請を行っています。本システムは児童生徒がコンピュータを使って問題を解いていくeラーニング学習システムで、次のような特徴があります。

①問題の間違え方に応じて次の問題が変わる。

学習者の解答が間違いの場合、その間違いに学習者自ら気づくような問題が出てきます。単位によっては、1,000以上の画面数が用意されているため、個に応じた学習ができます。

②一人一人の学習状況を瞬時に把握できる。

学習者の学習状況や正解率、誤答傾向、解答に要した時間が瞬時に把握できるため、教師は悩んでいる学習者に的確な指導を行うことができます。

③クラス全体で苦手としている問題がわかる。

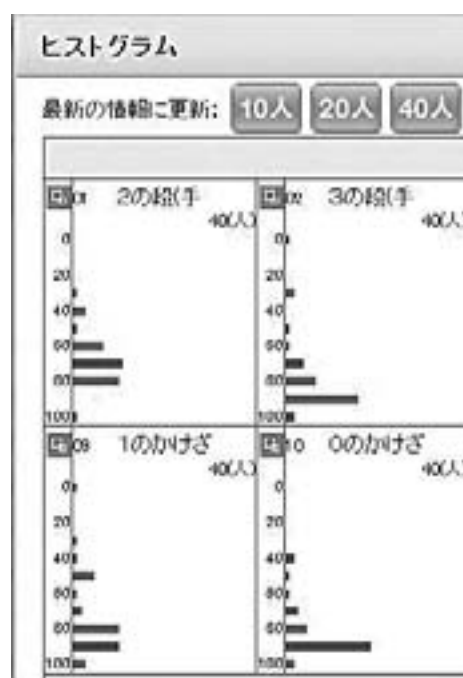
正解率の低い問題やその問題の間違え方がわかるため、授業改善に役立てることができます。

④家庭学習に活用できる。

インターネット環境があれば、家庭学習でも活用でき、教師はその学習状況を学校のPCで把握することができます。

大学と専門業者が共同で3年以上の歳月をかけ

て作成したコンテンツを用意し、多くの単元で効果的に活用できるようになりました。出前講座にてシステムの説明研修も行っています。どうぞご活用下さい。



【ヒストグラムでクラス全体の苦手箇所を把握】

研修員は今…

本教育センターでは、4月に入所した49名（前期長期研修員23名、離島長期研修員5名、1年長期研修員21名）の先生方が、日々の研修講座や各検討会（テーマ検討・中間検討等）、検証授業及びフラワーフライデーなどの様々な活動を通して、研修員同士切磋琢磨しながら自身の教師力の向上に努めています。また、研修修了後、それぞれの学校に戻った際にはミドルリーダーとして活躍するべく資質向上にも取り組んでいます。本項では、「研修員は今…」と題して、時に忙しく時に楽しく研修に励む先生方の様子を紹介します。

名護市立東江中学校 萩堂 かおり

学校では味わえない緊張感、新しい出会い、一喜一憂する毎日。慌ただしく流れている学校生活とはちがい、書物を読む時間や講座、指導主事との検討会や研修員との語らいは、とても貴重な時間だと感じる。残り少ないこの時を大切にしたい。

（教育経営研修班）

沖縄市立山内中学校 津波古 健

センターの日々は、現場と違い落ち着いた環境の中で…と言いたところだが、毎日が新たな知識、研究との出会い、それらを整理・理解するだけでも大変。やばい！期限が迫っている！

（教育経営研修班）

県立北中城高等学校 松野 夕子

毎朝、植物への水かけを楽しんでいます。センターは、学校現場とはひと味もふた味も違い、いろんな人と出会いながら、異文化職場体験を実施中です。いつも応援して下さいありがとうございます。

（教育経営研修班）

県立浦添高等学校 大城 育子

教育センターは、学校現場とは別世界。意欲的になれば、色々な刺激があり、新しい出会いとともに、気づきや学びがあります。“学びの共同体”の仲間と日々、時間を共有できることに感謝しています。

（教育経営研修班）

糸満市立西崎小学校 金城 忍

現在、IT教育班の長期研修員として充実した日々を送っています。研修体制が充実しており、研修員一人一人に担当主事がついてくれることに驚かされました。この一年を通し現場で使ってもらえるコンテンツ作成に励んでいきたいと考えています。

（IT教育班）

うるま市立平敷屋小学校 國場 千賀子

研究に明け暮れる毎日は、これまで学校現場で成しえなかったことを実践できる有意義な日々です。長期研修員として過ごす日々の中、多く学び得ています。この経験が私自身の大きな糧になるものと実感しています。

（IT教育班）

県立沖縄水産高等学校 加藤 司

長期研修も3ヶ月が過ぎました。現在、生徒のための教材作りを使命に、日々研究に、勉強に勤しんでいます。この環境を与えていただいたことに常々感謝して、生徒の学習成果を保証する教材作りをしていきたいです。

（IT教育班）

県立美咲特別支援学校 宮城 茂

今回の長期研修は、これまで受けてきた初任研、10年研に比べて、半年間「研究テーマ」に専念して没頭できる環境にあり、とてもありがたく感じています。テーマ検討、中間検討を経て、言葉や文字を他者に伝える大切さ、難しさを実感しながら、成果報告会に向けて励んでいます。

（特別支援教育班）

研修風景 (その1)



研修風景（特別講演会）



研修風景（研修員室にて）



他教科の先生方との交流（産業教育班）

県立沖縄ろう学校 比嘉 千秋

研修員同士お互いの学校の様子が聞けてとても勉強になります。また班長をはじめ主事の先生方もざっくばらんに指導助言を下さるので、様々な角度から課題を捉えることができ、充実した研修生活を送っています。

（特別支援教育班）

県立鏡が丘特別支援学校 湧武 真也

研修がスタートして、4ヶ月が経とうとしていますが、充実した毎日を過ごしています。自分の課題に取組むだけでなく、自分自身を見つめ直す良い機会となっています。残された期間を大切に今後も頑張ります。

（特別支援教育班）

研修風景
(その2)



クラブ活動(華道クラブ)



フラワーフライデー(月1回の環境整備;全所員・研修員参加)の様子



テーマ検討会の様子(産業教育班)



検証授業 玉城哲也教諭(理科研修班)



検証授業 福地音響教諭(教科研修班)

県立南部農林高等学校 長間 邦和

研修では、全ての校種・教科の先生方と様々な生徒支援方法の実践、他教科の最新の授業実践方法を習得しています。現場にいる時とは違い、心に余裕を持って研修できるこの場所で、私はこれからもフレッシュな授業・仕事・人生を実践できると感じています。

(産業教育班)

県立那覇工業高等学校 友利 悟

私はクラブ活動で書道を選択しています。研修では教材研究や教材作成のためにプログラミングをしています。クラブ活動での書道の時間は、研修で行き詰った心が無心になれ、癒しのひと時になっています。充実したクラブ活動になっています。

(産業教育班)

那覇市立古蔵中学校 大城 司

研修員同士、沖縄の教育を向上させるぞと、熱い想いで研究を進めていく中の何気ない会話の中に、多くのヒントがあるのも、小中高の連携があってこそ。"どうしたら"を考えるその枠を一回り大きくすることが勉強になります。

(教科研修班)

今帰仁村立兼次小学校 田原 武命

楽しみながら頑張ろうという気持ちを持ち室長として、"みんなの和"を大事にしてきた。4月1日、お互い全然知らんちゅーから、この四ヶ月苦楽を共にすることで、お互いの絆が深まってきたように感じる。残り二ヶ月、前期教科研修班の解散の日に、別れが名残惜しく思えるメンバーになっているだろう。仲間との出会いで切磋琢磨できたことも研修の大きな財産になった。(教科研修班)

沖縄県立貝志川高等学校 長浜 志真子

「この子、こんなに豊かな心を持ってんだ!」検証授業の生徒の発言や行動、記述等、生徒一人一人のよさの発見に驚き胸を熱くする。生徒のよさを見取ってあげられるようになったのも研修での大きな成果だ。それが嬉しく私の明日への糧になっている。

(教科研修班)

南風原町立津嘉山小学校 湧川 博美

初めて出会う子どもたちといきなり検証授業!不安いっぱいでしたが、子どもたちは意欲をもち、めあてに向かって学習を進めていきました。教師が、子どもにどんな力をどうやって付けるかを教材研究をして臨んだため、意欲的に学習に取り組んでくれたと思います。改めて理論と教材研究の大切さを実感しました。(教科研修班)

研修を終えた先生方は今...

県立首里東高等学校 進路指導担当 松田 あづさ

半年間の研修において進路指導の系統的な在り方を学びました。現在も本校の進路指導における課題や現状を分析し、委員会・部会・集会などで検討・情報を共有することで、個々に応じた進路指導が組織的に行えるよう心がけています。

(H24前期研修員)

国頭教育事務所 社会教育主事 宮城 昭彦

長期研修を終え、4月から社会教育主事として勤務することになりました。新しい分野へのチャレンジですが、自己研鑽に励み、豊かでありやりのある社会の実現のために誠心誠意頑張ります。「雲外蒼天」明るい未来のために

(H24後期研修員)

浦添市立浦添中学校 進路指導担当 花城 桃子

研修後は24年度・25年度と進路指導を担当しています。センターでの研修内容を生かし「学びや体験をつなぐ取組」や「進学指導だけでなく進路指導の在り方」に関する研究を続けながら、毎日の指導・実践を行っています。

(H23後期研修員)

県立与勝高等学校 進路指導担当 浦崎 直彦

研修を終え、学校でキャリア教育の視点を取り入れた社会人講話を実施しています。将来の人生設計を踏まえ、自分の適性や他者との関係・役割を考えたり、講師に学生時代の必須課題を含めた助言をお願いし、進路の早期決定と学習意欲向上に努めています。

(H23前期研修員)

平成26年度長期研修員の募集について

教育センターで教師力向上やミドルリーダーとしての資質向上を図ってみませんか!

研修
目的

本県の教育課題の解決・改善及び教科・領域等での指導方法の工夫・改善を図るための理論研究
各講座等を通して教職員としての資質向上を図り、学校現場における課題解決に対応できる人材の育成

※詳細については、各学校に送付される募集要項にてご確認ください。